

話題 其の50：“悲惨なフィリピン人のメイドさん”

10月18日、フィリピンに一時帰国していた July (ジュリー) がヨルダンに帰ってきました。彼女は、ヨルダンからカタールのドーハ経由でマニラに向かう機内で一人のパジャマ姿同然のフィリピン人女性に出逢ったそうです。不信に思った July は色々話を聞いてみたところ、その女性は、

- ・ヨルダンにメイドとして入国して働き始めて、僅か1週間後だった(パスポート確認)
- ・住み込みで働いていた雇用主に犯されそうになって雇用主の婦人に相談した
- ・婦人はトラブルを防ぐ為に彼女の為に航空券を用意した
- ・亭主が帰宅する寸前に取るものも取りあえず家を出て空港に向かった
- ・彼女が持ち出せたのは、小さな手提げにスリッパだけ

という事情だったそうです。

July と私の共通する意見は「婦人はいい人だった」と言うことです。

本来ならば、婦人が亭主と喧嘩でもしてメイドを庇うのが上等の対処法ですが、私たちはそれに期待していません。「奥さんもグルになって、メイドが主人を誘惑した」という筋書きに書き換えられなかったからです。

問題は、理不尽な人権無視がまかり通る風潮がこの国に有ることと、ヨルダン国に対するフィリピン政府(大使館)の弱腰な対応を取らざるを得ない国力だと思えます。

悲惨な彼女の境遇を見かねた July は、マニラに着いた一文無しの彼女に、里へ帰る為の交通費と少しばかりのお金を渡して、空港で別れたそうです。

July は、フィリピンからヨルダンに向かう帰路の経由地ドーハの空港内で、又も始めてフィリピンから出てきた女性に声をかけられ、乗り換えの手続きを手伝い、機内ではヨルダンで生活するメイドの心得など多くを伝授したと言います。

アンマンの空港で「私も貴方に付いて行く」と言い出した彼女に「それは契約違反の犯罪行為で、私はその共犯者として逮捕されるから連れて行けない」と厳しく断ったそうです。

雇用主を不安な気持ちで待つ彼女に、後ろ髪を引かれる思いだったでしょう。

ドーハからアンマンに向かう機内には、他にフィリピン人を見かけることは無く、多くのスリランカ人、インドネシア人女性を見かけたそうです。

間もなくイスラム教徒にとって約1ヶ月の断食月ラマダンが始まります。

ラマダン前に、毎年の恒例みたいになっているのが、ヨルダン警察による、外国人不法滞在者の検挙です。10月の22日にも、警察が不法滞在中のフィリピン人メイド5人を検挙したそうで、July の大親友である Berenda (ビレンダ) は、24日の我が家の仕事を休み、外出せず自宅に潜んでいます。Berenda は、1年半前にパスポートを持たずに雇用主から逃走している最中なのです。彼女も何度かフィリピン大使館に相談したものの対応して貰えません。泣き寝入り状態です。

それにしても、この通信で彼女達に関する苦勞話が尽きないのは残念なことです。

(因みに、関連記事は、第19号：話題其の28 “笑うに笑えない話”、第22号：話題其の32 “みなさんにお願ひしま〜す”、第27号：話題其の38 “イラク戦争の陰で”、第28号：話題其の39 “垣間見るヨルダンのフィリピンメイド事情”、第29号：話題其の41 “在ヨルダンのメイド事情” 第31号：話題其の43 “さようならリンダ ご苦勞様でした”)

話題 其の51：“エ? 今日からラマダン”

「そろそろラマダンに入ってもいい頃なのに情報が無いな？」

と思いながら出勤した10月26日、同僚曰く「今日からラマダンに入っているよ」との事です。昨年の今ごろ考えていたことは「もうこれでラマダンも最後の経験かな？」でしたが、今年も突入(^-^)してしまいました。

ラマダンの様子はこれまでも紹介してきましたので、新たな特ダネや学習に接したらまた紹介したいと思います。(以前のラマダンに関する記事は、第9号、第10号、第21号にあります)
